

515

二月廿一日(日)

朝から軽塵をうるほす態の春雨だ、午ねル成って歇
んばかり、豫定のインター新球(Softball)試合はお流
れルかった。日曜といふのに出かけのタレがまいるで、
バフフク内のお饅頭車連は朝から蛙の巣と堀り出い
た様に喧々と矢をい、ウルサイ華限りキ。讀書も
できぬから寝込んで了ふと更ルウルサく、岡崎
君も来れぬへって、"よくも舌饅れしたものだ"と、たうたう
起き上って終った。一週一回の"静"も期待してたの
にか今日は台無しに成った。

昨日Hエリアル新に九名のインターが収容された。
大半は柔道及び山中岳方面からの同胞で、ミゾウ
収容所から送られて来たものもあると云ふ。又一人
リリースされるcenterに在った者が、更に逆戻りに来
たものもあると云ふ。

今日の晝食から、八名の日本捕虜が、B-1の食
堂で食事をする事になった。無論兵らとテーブルを
異にするのが、時間も若干早目か或は稍々遅
れて早く着く順序ルなっている。兵らとの会話は絶
對許可されずカードに三名監視にねる。全部
時校であって、先遣旅りに案内された十名をの
外に新に十名の捕虜が加はつてると付へられ、各々の
食堂へ来る士官等は、凡て新しい捕虜である由、中
に白髪のお十歳以上のとも見らる士官あり、此の十
隊中の最上官らしく観へる、あの年齢から看れば

日本
捕虜
士官

516

正しく将官扱であつてはあらんか、蓋し戦後備から
戦争に際し、現役に復したのか、或は運送船の船
長であらうと推せらる。揃ひも揃つて大柄の男はかり
で、既給服の上夜の背帯は白字で大きくPW
(Prisoner of War)と舞々しく記してゐるのか
目立つ。宮川老が通弁として附添して居るが、彼
等は自由に笑話を話し得るといふ。

二月廿二日(月)

宮川通弁から直接に聴取した結果、日軍捕虜兵
中の白髪の老人は特務少佐であり、全員凡て士官で
あらう云々。尚ほ同一区域に昨日収容された九名
の新らしい Internees は、一名だけがミソウからで、残りは
各地から検査された人々であつて、中には一レストラ
ント就働中、帰国を申出た処、其後二回に亘り取
調へも受けた結果収容の身とあつたのだと云々。

スポーケン市の笠井老は今迄の葬儀執りの為の二
名のガート附添の上帰宅を許されぬと滞在の
後昨夜キャンプへ帰つて来り、全員の土産談にて
傳へられる処によれば、同地に在る日軍市民及び
一世/向に於ける風紀は甚だ紊亂し、手の着けな
がぬ状態だと謂はれる。

今日は Washington Day で米国の所謂 legal
holiday の一つだ。港のポートランドの者々から
同ヶ森と来て見らせにいらるゝが、この供養部